

令和3年度事業報告

I 事業の概要

昨年は、1年遅れの2020東京オリンピックが開催され、日本国民に大きな感動を与えてくれました。

しかし、自然災害は各地で発生し、特に地震は2月の福島県沖地震を皮切りに3月の和歌山県北部地震、宮城県沖地震と震度5級の地震が相次ぎ、今なお続いている状況であります。

新型コロナウイルス感染症の発生状況では、令和2年1月16日に国内初の感染者の確認が発表され、4月11日をピークとする流行（第1波）が始まり、それから第2波、第3波と続き、令和3年3月下旬からは新たな変異ウイルス（アルファ株）による第4波が始まり、新しいコロナ対策として「まん延防止等重点措置」が適用されました。

その後、7月から9月頃にかけて、新たなデルタ株の猛威により第5波が到来しました。年末に入り一時感染者も減少したが、令和4年1月にはオミクロン株の急拡大により第6波に突入し、今なお続いている状況です。

山形県でも、令和3年8月に感染者が増加し、その後減少が続きましたが、令和4年1月10日以降に感染者が増大し、1月27日から山形市、庄内地区に「まん延防止等重点措置」が適用されました。

このようなことから、昨年度に引き続き、会議、研修会等は、計画通り実施することが困難な状況となりました。

全国の経済動向は、令和4年1月の内閣府の月例経済報告によれば、「景気は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和される中で、このところ持ち直しの動きがみられる。

先行きについては、感染症対策に万全を期し、経済社会活動を継続していく中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、感染症による影響や供給面での制約、原材料価格の動向による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。」と報告しております。

山形県の経済は、総じてみれば緩やかに持ち直していますが、新型コロナウイルス感染症の急激な拡大による影響が懸念されています。

こうした下で、令和3年度の実質国内総生産（実質GDP）成長率は2.6%程度、名目国内総生産（実質GDP）成長率は1.7%程度となり、GDPは令和3年度中に感染拡大前の水準を回復することが見込まれ、また消費者物価（総合）変化率は▲0.1%程度と見込まれます。

高齢者の雇用・就業に関する政府方針に示されている「一億総活躍社会の実現に向けた横断的課題である働き方改革の方向」及び「働き方改革実行計画」に基づき高齢者の就業を促進し、少子高齢化が進み労働力人口が減少している中、働

く意欲のある高齢者が活躍し続けることができる「生涯現役社会」を実現することがますます重要となっています。

シルバー人材センターを取り巻く環境は依然厳しいものとなっていますが、全国シルバー人材センター協会の掲げる「会員 100 万人の目標」のもと、団塊の世代 660 万人の受け入れが必要となっておりますが、コロナの影響で、多くのセンターで会員数が大きく減少しています。

本町の令和 4 年 3 月 31 日現在の人口は、20,157 人(男性 9,698 人、女性 10,459 人)で 60 歳以上の人口は、9,118 人、会員数は 320 人、粗入会率は 3.5%となっております。

令和 3 年度本町シルバー人材センターの経営状況では、当期経常増減額は、1,092 千円、過年度収益修正 2,103 千円となり、正味財産期末残高では、9,196 千円の決算となりました。

事業実績については、会員数で対前年度比 10 名の減となり、契約金額では、請負・委任については、コロナ禍の影響、公共事業の減少、民間企業への請負会員が見つからなかった等により 4,212 千円 (3.1%) の減少となり、派遣事業については、これまで増加傾向にありましたが、ここにもコロナ禍の影響、施設管理業務の終了などにより 1,375 千円 (3.0%) の減で、全体では、5,587 千円 (3.1%) の減少となりました。

令和 3 年度及び令和 2 年度の実績は次のとおりです。

◎ 令和 3 年 3 月末会員数 (人)

男性 (人)	女性 (人)	合計 (人)
200	130	330

令和 3 年度入会数 (人)			令和 3 年度退会数 (人)			令和 3 年度末会員数 (人)		
男 性	女 性	合 計	男 性	女 性	合 計	男 性	女 性	合 計
17	11	28	25	13	38	192	128	320

◎ 受注件数 (件)

	請 負・委 任	派 遣	合 計
令 和 3 年 度	2,294	48	2,342
令 和 2 年 度	2,330	39	2,369
前 年 度 差 異	△36	9	△27

◎ 就業延人員（人日）

	請 負・委 任	派 遣	合 計
令和 3 年 度	33,654	8,241	41,895
令和 2 年 度	33,614	8,142	41,756
前年度差異	40	99	139

◎ 契約金額（千円）

請 負・委 任 契 約 金 額				
	配 分 金	材 料 費 等	事 務 費	計
令和 3 年 度	113,178	1,892	15,619	130,689
令和 2 年 度	117,267	2,042	15,592	134,901
前年度差異	△4,089	△150	27	△4,212
派 遣 契 約 金 額				合 計
	賃 金	手 数 料 等	計	
令和 3 年 度	34,190	10,720	44,910	175,599
令和 2 年 度	35,233	11,052	46,285	181,186
前年度差異	△1,043	△332	△1,375	△5,587

このような状況の中、地域の期待に応えるためには、会員の拡大が不可欠であり、会員の拡大に対応するには、就業機会の確保が必要であります。

高齢者が有する経験と能力を活かして地域社会で活躍する場を提供し、生きがいの充実や健康の保持・増進、社会参加等現役を引退した後も就業等を通じて地域社会で「居場所」と「出番」が得られることを目指し、シルバー事業の普及啓発と就業機会の開拓・確保、就業形態の多様化に伴う適正就業の推進、ボランティア活動など積極的に事業を実施していかなければなりません。

Ⅱ 実施状況

1 会員の拡大のための対応

- (1) 広報委員会を8回開催するとともに、6月28日には、当シルバー人材センター会報「シルバー庄内」（第14号）を発刊し会員に対し情報提供を行いました。
- (2) 令和3年度中は28名（男性17人、女性11人）の加入、38名（男性25人、女性13人）の退会があり年間では10名の減少で、令和4年3月31日現在では320名となっております。
- (3) 役職員による新規会員の勧誘を行いました。
- (4) 町広報「しょうない」に、会員募集中のチラシを折り込みしました。
- (5) 庄内日報、町の生活学校記念誌に広告を掲載しました。

- (6) センターに興味を持っている人がいる情報があった場合には、積極的に情報提供を行いました。
- (7) ホームページによる情報発信を実施しました。

2 就業機会拡大のための対応

- (1) 安全就業及び事故防止並びに就業率の向上を図るため設置した職群班を活用し、就業の平準化並びに未就業会員の解消を図るとともに、就業機会開拓員を中心に就業機会開拓に努めました。
- (2) 昨年に引き続き新たに町広報「しょうない」、町議会だより、県民のあゆみ、社会福祉協議会発行の「福祉しょうない社協」の配布に取り組みました。
- (3) 余目地域に「コミュニティしんぶん」の配布を実施しました。
- (4) 「在宅高齢者軽度生活援助事業」の拡大に努めました。
- (5) 町長選挙、町議会議員補欠選挙及び衆議院総選挙ポスター掲示板の設置・撤去に取り組みました。
- (6) 高年齢者就労活性化事業では、障子・襖張り講習会（6/23. 24）及び剪定作業講習会（8/4）を実施し、講習会には3日間延べ40人の会員の参加がありました。
- (7) 昨年度中止しました門松制作について、会員の方々の協力により復活し、販売するするとともに、庄内町役場、JR狩川駅に寄贈しました。
- (8) 総体的には、受注に対し時期的に対応しきれない作業もあったことから今後の課題ととらえ対応していく必要があります。

3 安全・適正就業の推進のための対応

- (1) 安全・適正就業委員会を3回開催し、会員の就業中及び就業途中における事故防止対策を図るとともに、安全・適正就業委員による就業現場巡回指導を実施し、就業現場の安全対策の強化に努めました。
- (2) 事故防止、安全就業に努めましたが、請負・委任事業では、障害が2件発生いたしました。派遣事業では、労災保険適用外事故として2件が報告されています。
- (3) 安全・適正就業強化月間において、安全就業に関する標語を7月1日から7月30日の間募集を行い、会員等から10点の応募（昨年度は18点）がありました。県連合会の審査において、1点が佳作に入選し、令和3年10月15日の令和3年度「安全就業推進大会」において表彰されました。

4 ボランティア活動の推進

地域社会の一員として地域に貢献し、町民から親しまれるシルバー人材センターの実現を目指して、7月9日総勢37名の会員の参加のもと、余目八幡公園、狩川駅、狩川保育園及び狩川幼稚園の除草作業等を実施し、各施設からは、感謝の声をいただきました。

5 要望活動の実施

少子高齢化が進み、労働力人口が減少している中、働く意欲のある高齢者が活用し続けることができる「生涯現役社会」を実現するため、公共事業の契約の拡大と補助金の維持等庄内町に対し要望活動を実施いたしました。

6 理事会等の開催

シルバー人材センターの業務執行等を審議するため理事会4回、三役会議10回及び事務局会議を随時開催しました。

7 組織・運営基盤の確立と事務局体制の整備充実

- (1) 長年の課題でありました、事務所の統合につきましては、「一般社団法人庄内町シルバー人材センター事務所統合整備検討委員会」を設置しながら協議し、9月1日から実現いたしました。
- (2) 未加入の会員が就業体験（職場見学）を行った場合に、各センターに交付される高齢者活躍人材確保育成事業受託金150千円が交付され、また、受取補助金等では、連合交付金及び町の補助金の増額、また昨年度に引き続き特定求職者雇用開発助成金の交付もあり前年度比1,048千円増の6,216千円となりました。
- (3) 多様化する事業展開は請負・委任事業、派遣事業、職業紹介事業とその業務は幅広く、事業を進めるうえで、専門的知識が求められていますが今年度は、コロナウイルス感染症の影響もあり、計画どおりには進めることができませんでした。
- (4) 基本規程である定款に基づき事業を運営するための規程類の整備を図りました。
- (5) 広報委員会主催による座談会（一般会員3名によるフリートーキング、司会は広報委員会副委員長）を開催し、シルバー人材センターに期待する事等話し合いを行いました。
- (6) 役員が令和3年度をもって任期を迎えることから、新たな役員の選考につきまして、「理事及び監事候補者選考委員会」を設置し、協議いたしました。
- (7) 山形労働局による指導監査を受検し、指摘事項はありませんでした。
- (8) 印刷物の内製化（インソーシング）やコピー用紙の削減化を図り、経営の効率化を図りました。